

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300407		
法人名	社会福祉法人 一仁会		
事業所名	グループホーム天王園		
所在地	山口県周南市大字大河内1109-2		
自己評価作成日	平成27年5月11日	評価結果市町受理日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年5月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①当番制の食事前の挨拶、モップ掛け、洗濯物たたみ、出来る範囲での配膳下膳、テーブル拭き、食器洗いなど自分の仕事の一つとして身につけている。②音楽活動、押し花教室、お楽しみ会、お出掛け行事などにボランティアの協力あり。③委員15名による二か月に一回の運営推進会議の開催。④個人に合わせた食事形態の提供。⑤年一回、家族会を兼ねた日帰り旅行の実施。⑥年一回、家族会を兼ねたクリスマス会と試食会の実施。⑦本人の希望に寄り添う誕生日。⑧毎日のレクリエーション体操。⑨同一敷地内に特養、デイサービスがあり演芸などの慰問に参加している。⑩医療面は法人の看護師に相談できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議の参加者に、事業所での利用者の様子を職員の寸劇で伝えられたり、利用者と一緒に運動会を実施されたり、1回は防災訓練の開催日と同日に会議を行われ、参加者全員に訓練を体験してもらっています。事業所の状況や取り組みについての報告やニヤリホット報告(利用者の様子がうれしかった、楽しかったなど、職員が感じたこと)という事業所独自の報告などをされている他、毎回テーマを決めて勉強会を実施された後、意見交換をしてもらえるなど、運営推進会議をサービスの向上に活かすことができるように工夫して会議に取り組んでおられます。防災訓練には、地域の人の参加がある他、災害時の地域の協力員の連絡網があり、地域の人には車椅子の使用法の指導もしていただけるなど、災害時の協力体制を築いておられます。定期帝に来訪される地域のボランティア(紙工作、音楽、押し花、外出支援等)を利用者は楽しみにしておられ、気分転換や生きがいづくりとなるように活用されています。代表者や管理者は、職員の意見や提案を大切にされ、意見が活かせるように体制をつくっておられます。夜勤者の勤務時間の変更、早朝時の事故防止のために早出勤務を新たにつくられるなど職員の意見を活かされ、働く意欲の向上やサービスの質の向上につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から一貫して変わることのない理念は、ホーム内の目にとまる場所に掲げており、職員はそれを共有し、壁にぶつかるとこれに戻って実践に繋げるよう努力している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。日々の業務の中で、課題に直面した時は理念に立ち戻って検討し、話し合うことで理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にはいかないが、公民館行事、学校行事への参加、演芸、催し物の観覧、近所住民、ボランティアの訪問、園内行事へお誘いをして交流している	地域の広報誌の回覧や職員からの情報で地域の行事を把握して、公民館の文化祭や餅つき、どんど焼きに参加している他、カラオケショーや演芸を見に出かけている。地域の保育園や幼稚園、小中学校の運動会に参加している。法人主催の夏祭りには地域からも多くの参加があり、交流している。音楽教室、押し花教室、花壇の花植え、外出時の支援等、ボランティアの定期的な来訪がある。散歩のときには、出会った人と挨拶を交わし、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流をしている。小学生の体験学習や中学生の職場体験、高校生の介護実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において地域の方と認知症について話し合いをしたり、ホームにて利用者との交流を通して、認知症の方への理解を深めてもらっている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価されたことを糧として全員で共有し、一つ一つ出来ることからことから職員研修の場で話し合い、改善項目を増やしていく	管理者が評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布して、記入してもらい、管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立て、事故防止として、誤嚥や呼吸困難に備えての吸引器の使用法の訓練や介護計画見直しのためのモニタリングの検討など具体的な改善に取り組んでいるが、評価項目を理解し、活用するまでには至っていない。	・評価項目の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議において利用者の近況報告や話し合いを通して出た意見は、サービス向上をめざし、利用者に還元できるよう努力している	年6回開催し、利用者の近況報告や行事報告、ヒヤリハット報告、ニヤリホット(利用者の暮らしの中で、うれしかった事、楽しかった事など)報告、外部評価結果報告の他、毎回テーマを決めて勉強会をした後に意見交換をしている。運営推進会議の会場が事業所内でないことから、利用者を理解してもらうために職員による寸劇の実施や参加者と利用者が一緒に運動会を行い、参加者が避難訓練に参加できるよう避難訓練を同日に実施するなどの工夫をしている。参加者からの意見で、行方不明になった時の対応について質問があり、警察署員を招き「認知症高齢者の行方不明と交通安全」について勉強会を実施している。運営推進会議は何をするのかという意見には、「山口県サービス評価地域推進会議」の資料を用いて説明を行っている。運営推進会議を活用し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとしての参加がありその場で意見を聞いたり電話で相談している。また介護ヘルプやまぐちの情報をチェックして情報を集めている	市担当者とは、運営推進会議の他、電話やFAXで情報交換や制度改正についての相談を行い助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修で身体拘束について学び理解をしている。玄関の施錠を含めて、身体拘束はしていない。	「身体拘束に関するマニュアル」があり、管理者が業務の中で必要に応じて職員に話をしている。職員は身体拘束の弊害について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気づいたときには管理者が指導している。玄関は施錠しないで、外出したい利用者には職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修の場で学んではいるが、何が虐待にあたるのかを周知徹底し、思い当たることがあればお互いに注意をし、即改善する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で勉強する機会を得たが、出席していない職員は資料の閲覧のみで、話し合いには至っていない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の読み上げでの説明をしている。疑問、不安等に対する説明は理解できるように話をして納得してもらえるように努めている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、相談、要望に対しては、話し合いをして良い方向へ改善調整している。苦情に対しては受け付け体制ができています。どちらも運営推進会議や職員に提示して意見交換をしている	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員と外部機関を明示し、契約時に家族に説明をしている。面会時や家族会（年2回）、運営推進会議時の他、電話で家族からの意見や要望を聞いている。家族からは面会者の人数制限についてや家族の旅行等による長期不在時の利用者の事故や疾病悪化等への事業所の対応についての要望や相談があり、安心と信頼が得られるように説明している他、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員研修の場で意見交換して、改善点を見つけたし、運営に反映させている	管理者は、毎月の職員会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で聞いている。併設4施設の管理者が参加する週1回の夕礼会や月1回行われる法人管理者ミーティングで提案し代表者に報告している。夜勤者の勤務時間の変更や利用者の状況に対応出来るように早出勤務を設けるなど職員の意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まずは個々が就業規則を守ること。就業環境の整備は取り組みがなされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、自らを向上させるために研修会に参加している	外部研修の情報を職員に伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を提出し伝達研修を行い、職員全員で共有している。月1回の法人研修(メンタルヘルス、食中毒予防、防災対策、接遇、介護力向上、リスクマネジメント、認知症ケア他)に参加をしている。内部研修は毎月、事故防止や緊急時の対応、認知症ケア、吸引器の取扱、高齢者のバイタルサインなどについて実施している。新人研修は外部研修の機会を利用して受講したあと、日々の業務の中で管理者や先輩職員が指導して、働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に順番で参加しているが、相互訪問での交流の活動はない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかり傾聴し、寄り添い、職員や他の利用者と馴染み、不安なくホームの環境に慣れるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より今までの状況、これからの要望を聞き、できる限り意向に沿うように努めている。日々の様子を知らせている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員や他の利用者に対して、どのような動き、反応を示されるかを見て、安心して暮らしていけるよう、まずは職員が寄り添い、必要な支援を見極める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	嬉しかったこと、苦しかったこと、困ったこと、悔しかったこと、悩んでいること、悲しかったこと等、話を引き出したり、打ち明けたり、知恵を出したりもらったりと沢山、共通の話をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、家族でゆっくり過ごしてもらっている。また、家族からの相談、職員からの本人のための相談をし合っている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ敷地内のデイサービスやショートステイ利用者で馴染みの方との交流は容易だが、場所は職員だけの対応は難しく、家族の支援を要している	家族、兄弟、友人の来訪や併設の法人施設利用者である知人との交流がある他、電話の取次ぎや手紙を読むなどの支援をしている。馴染みの美容院から迎えがあり、利用している他、家族の協力を得て一時帰宅や近所への訪問、馴染みの美容院の利用、法事への参加、墓参り、買物、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性が前面に出ている利用者同士の関係で、席の調整、仲の取り持ち、孤立する利用者への関わり方、支援に努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いが伝わってくる利用者、遠慮している利用者、わからない利用者それぞれ思いが違うが、本人本位に把握している	入居時に家族から利用者の生活歴や趣味、嗜好を聞き取って把握し、入居後は日々の暮らしの中での利用者の言葉や行動をケース記録に記録して思いの把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、担当だったケアマネからの情報を書類、話しなどから知り得て、職員同士共有している		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ簿、日誌などの記録、利用者本人の訴え、口コミ、雑談等で現状の把握ができています		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員など、関係者の要望などの情報をもとに現状に即した介護計画を作成している。また、職員会議において定期的な見直しを検討するモニタリング会議を行うことにした	管理者や計画作成担当者を中心に月1回カンファレンスを行い、利用者の思いや家族の意向、かかりつけ医、看護師等の意見を参考に職員全員で話し合い、介護計画を作成している。随時、モニタリングを実施して見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践。結果や気づきや工夫を個別ファイルに記入している。記録に残すことで、問題点が出てきて介護計画の見直しが容易になっている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、柔軟に対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源であるボランティアを活用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を利用してもらっているが、家族の希望があればいつでも対応できている	本人、家族の納得を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の定期受診支援の他、緊急時の対応の支援をしている。他科受診は家族の協力を得ているが、歯科受診は事業所で支援している。併設の法人施設の看護師はかかりつけ医への連絡や夜間緊急時の情報提供等対応を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の特養の看護師に報告、連絡、相談できる体制ができていて、定期的にも、突発の際にも適切な受診や看護が受けられる		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者の中で、窓口になってくれるワーカーとの連絡を密にしている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の対応について家族に口頭で説明している。実際に重度化した場合、ホームでの生活が困難になった場合は家族、主治医、看護師、他関係者と話し合い今後の方針を立てている。	契約時に事業所で出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医、看護師等の関係者で話し合い、方針を共有して、医療機関への移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクが発生したときに職員全員が、ルールにのっとって同じ対応をしている。また、6月と12月に全職員を対象にした定期的な研修に参加し、職員研修の場では実際に想定してシミュレーション体験をしている。	ヒヤリハット報告書に状況や原因、予防策を記録し、全職員に回覧して周知し、月1回の職員研修会議で再検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。誤嚥や窒息を想定した吸引器の使用法の訓練を実施しているが、その他の日常起こりうる事故発生について全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練、夜間を想定した訓練を行い、避難方法、避難経路は職員全員把握している。地域住民による協力体制も整っている。今後は地震が起きた時の対策に力を入れたい。	年2回、消防署の協力を得て、併設の法人施設と合同で昼夜の火災を想定して、避難訓練、通報訓練、消火訓練を利用者や運営推進会議の参加者、地域の人と一緒にしている。毎月1回、事業所独自で、防災機器の取り扱い方法や通報訓練、避難訓練を実施している。利用者の居室入口には利用者の救出時の対応方法が誰にでもわかるように、独歩、杖歩行、車椅子利用を絵で表示している。災害時の地域の協力員との連絡網があり、車いすの使用法の指導を行い、協力体制を築いている。非常用食品も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各部屋への出入りの際の声掛け。排泄介助時、入浴時、大切な話の時はドアを閉める。言葉かけなど個々に合わせて対応している	法人の接遇研修で学び、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、自分の祖父母に接するように親しみを持った言葉かけや対応で人格の尊重やプライバシーを損ねない対応をしている。利用者の個人記録の取り扱いに注意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの思いが伝えられない方には、介護者がどっちがいいですかなど選択肢を提供する		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人のペースを大切にして無理強いをせず、生活を乱さないようにしている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握して支援している。自分で選んで着用したときには、素敵、似合う、上品な、おしゃれね等、声をかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好みを聞いて、献立に活かしている。準備、片付けができる利用者は職員と一緒に台所に立っている	これまで三食とも事業所でつくって提供していたが、5月から食品業者の献立と食材を利用する取り組みをしており、新鮮な食材の提供の検討や地域の人からの差し入れの野菜や事業所の畑で採れた野菜で一品加えるなど工夫している。利用者は箸を配ったり、トレイを拭く、配膳、下膳、湯呑みを配る、食事の挨拶の当番など、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、同じものを食べながら会話を一緒に食事をしている。季節のおやつづくり(柏餅)を一緒にいき、年3回の外食(回転寿司、うどんなど)、誕生日には本人の好きな献立にするなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	い血液検査の結果、数値に異常が出た利用者には個別に支援をしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕は職員介入で口腔ケアをしている。自分で磨けない方は介助をしている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ホーム内に3か所トイレがあり、順番待ちは、ほぼない。排泄チェック表を作成しており、個々に合わせた支援をしている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、習慣を活かして利用者に合わせた声かけや誘導を行い、トイレで排泄ができるように、自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成している。果物、ヨーグルト、食物繊維の多い食物の適宜使用、水分摂取、毎日の体操で便秘を予防している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午後入浴を推奨しているが、場合によっては午前入浴もある。夜間入浴はしていない。入浴時間の長い短い、シャワー浴など個人に合わせている	入浴は毎日、13時30分から15時までの間可能で、希望に合わせて入浴できる。入浴剤やバラ湯、ゆず湯など季節を楽しみながらゆつくりと入浴が出来るように支援している。入浴したくない利用者には、職員が変わって声をかけたり、日時を変えるなどして対応している。利用者の体調に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴などで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に清潔なベッドに入っている。室温管理、明るさにも気を配っている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理簿を作成していつでも閲覧ができ確認できる。管理は職員が行い症状に変化があるとすぐ法人の看護師に連絡相談している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、歌を歌う、調理、片付け、洗濯物たたみ、洗濯物干し、残飯処理の新聞折り、不要布を切る、テーブル拭き、計算ドリル、脳トレ、工作、ホットコーヒーなどのおやつ楽しみなどを支援している	テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、歌を歌う、紙工作、貼り絵、ぬり絵、季節の壁画づくり、押し花、トランプ、諺かるた、ボール遊び、ラジオ体操、口腔体操、ボール体操、棒体操、脳トレ(漢字、計算)ゲーム、散歩、外出、買い物、歌謡ショー、お茶会、新聞紙でゴミ箱づくり、掃除、モップがけ、布団干し、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花を生ける、花の水やり、食事の準備や後片付け、食事の挨拶当番など、利用者の喜びや張り合いとなるように、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の花壇、洗濯物干し場、散歩、ゴミ出しは日常的に出かけている。車を使ってのお出かけも気候が良い時に花見を中心にボランティアの協力を得て出かけている。本人の誕生日頃に希望の場所に出かける支援を始めた	散歩や買物、ボランティアの協力を得て季節の花見(桜、紫陽花、菜の花、ポピー、芝桜、紅葉)、ドライブ(八代の鶴、海)、初詣、柳井フラワーランド、誕生日の外出、歌謡ショー、押し花の展示会に出かけている他、家族の協力を得て、買物、美容院、外食、法事、墓参りなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金を所持されていない。家族と出かけた時には好みの買い物をしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話は子機もあり、携帯電話もあるので好きな場所でかけたり受けたりできる。手紙は代筆も受けている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫された設計になっている。生け花、壁紙を利用して季節感を出している。台所が中央にあるので美味しい匂いが食欲をそそる	リビングには、大きな机や椅子、テレビ、電子ピアノが配置してあり、畳の間には季節の花を飾り、窓からは山や田園風景が見える。リビングの壁面に利用者がつくった季節に合わせた作品を飾っているなど、季節感を感じることができる。畳の間にはマッサージ機やレクレーションで使用する用具がすぐに使えるように置いてある。中庭を囲む廊下には籐の長椅子を置き、好きな場所で過ごせるようになっている。温度、湿度、換気、明るさ、清潔に配慮して居心地良く過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの部屋は行き来できる。ホーム内に3か所長椅子がおいてあるので、好きな場所で過ごせる。和室もあるので昼寝や足を延ばすことができる		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みの品物を持参してもらっている。自室内の品々の配置は本人が家族と一緒にやっている。片付け場所に不安がある利用者には品名を書いたシールを張って収納場所を示している	ダンス、衣装掛けスタンド、時計、椅子、温湿度計、装飾小物、ごみ箱、床掃除用モップなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や利用者のつくった押し花の作品、絵手紙、カレンダー、日めくりカレンダーを飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の確認のために、トイレ、風呂と書いてあり分かりやすい。また食堂の席、自室の入り口も名前が記されているので間違えにくい		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム天王園

作成日：平成 28 年 1 月 26 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故が発生したときに備え、職員全員がルールにのっとって同じ対応をしているが、慌てることでその成果が活かしきれていないことがあり、定期的な訓練の実施が不可欠である。	1人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につける。	月1回の職員会議において、ヒヤリハット報告書並びに事故報告書等により、ひとり一人のリスクを共有すると同時に、事故を想定しての初期対応訓練を行っている。	期間なし
2	27	月1回のカンファレンスを開催し、本人、家族の意見や要望の他、かかりつけ医師や看護師等の意見等を参考にして話し合い介護計画を作成している、基本的には1年毎にモニタリングを行い、見直しを検討しているが現状に即した見直しに至っていない。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を管理者と共に職員全員で作成し、見直しもまた全員で取り組む。	本人のより良い暮らしのための介護計画を立てたが、その計画で本人が満足感を味わっているかを、本人、家族、職員他関係者の意見やアイデアを反映してモニタリングを行い見直しをする。また大きな変化が現れた場合には随時、見直しを行う。	3ヶ月
3	4	評価の意義や、評価項目の理解が不足しているため、評価を活かした取り組みまでには至っていない。	自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組む。	毎月1回の職員会議で、評価の意義を、山口県地域密着型サービス評価項目ガイドを読みながら、理解を深めていく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。